



会員寄稿

各学年主任より

## 「まずは、守破離の守」

第1学年主任 伊藤 圭一

「守破離」とは、剣道や茶道などで修業における段階を示したものです。「守」は、師や流派の教え、型、技を忠実に守り、確実に身につける段階。「破」は、他の師や流派の教えについても考え、良いものを取り入れ、心技を発展させる段階。「離」は、一つの流派から離れ、独自の新しいものを生み出し確立させる段階です。今年度の1年生の学年テーマは「守」です。まずは、大洲高生としての生活習慣を確実に身に付け、次年度の発展期につなげてほしいと考えております。さて1年生諸君、唐突ですが世界的画家ピカソは、生涯を通じてどのくらいの作品を残したか知っていますか。答えは8万点です。80年間創作活動をしたと考えても一日3枚毎日描き続けたこととなります。つまり、何かを極めるためには量が必要だということです。量がどんどん積み重なって、ある時初めて質に転換するのです。勉強も部活動も近道を探るのではなく、まずは量を大切にしてください。それは「守破離」の考え方にもつながります。

そったく

## 「啐啄同時」

第2学年主任 飛田 亜希

「啐」とは、鶏卵が孵化しようとするとき、雛が内側から殻をつつくこと。「啄」とは、そんな卵の変化に気づいた親鳥が、外側から殻をつつくこと。禅宗にある「啐啄同時」とは、このタイミングがピッタリ合うことを意味し、禅門の修行者とそれを導く師の関係を表す言葉ですが、これは親子の関係、教師と生徒の関係にも通じる大切な言葉だと考えます。さて、本年度の2学年の学年目標は「突破～break through～」です。新年度が始まり、学業や部活動に邁進することはもちろんのこと、4月カヌー大会、5月修学旅行と、学校行事の中で一段と成長した姿を見せてくれている2年生。「なりたい自分」「希望する進路」に向かって、自分の殻を打ち破って、更なる成長を遂げてほしいと伝えています。我々も「啐啄」の機を逃さず、生徒の意欲に寄り添い、成長を促していきたいと思っております。また、生徒がお互いの「啐」に響き、協同し合う集団になってほしいとも思っております。最後になりましたが、保護者の皆様、本年度もどうぞよろしくお願いいたします。

## 「息子が一人暮らしを始めた日の話」

第3学年主任 土居 俊一

数年前、私も「受験生の保護者」でした。息子は、なんとか希望の大学（県外）へ進学することとなり、人生初の一人暮らしを始めることになりました。大学生の小さな引越しです。私の車で荷物を運び、息子と妻と私の三人で引越し作業をしました。一日かけて慌ただしく新居を片付けた後、近くの寿司屋に行き、親子三人で「最後の」夕食をとることにしました。食事の会話は、入学式の手続の話や一人暮らしの注意など、いたって普段通りの会話でした。食事を終えて店を出た時、私は息子に「じゃあ、愛媛に帰るね。頑張れよ」と声を掛けました。息子は、「うん」といつも通りに返しました。妻は、私の後に「じゃあね」とだけ言いました。妻の声が少し震えていたので妻の顔を見ると、妻は笑顔でしたが、眼には涙が溢れていました。喜び、懐古、感謝、惜別、期待、心配、応援……妻の涙はとても多義なものでしょう。「受験生の保護者」の想いは複雑で多様です。今年度、学年主任として、まっ直ぐ希望へ向かって努力する171名の生徒たちの心に寄り添い、悩みや不安をしっかりと共有し、支え導いていきたいと思っております。「受験生の保護者」の皆様、どうぞよろしくお願いいたします。